

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4673500098
法人名	医療法人 小山クリニック
事業所名	グループホーム れんげそう
訪問調査日	平成20年2月7日
評価確定日	平成20年3月7日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4673500098
法人名	医療法人 小山クリニック
事業所名	グループホーム れんげそう
所在地 (電話番号)	鹿児島県南さつま市金峰町尾下390番地 (電話) 0993-77-2646
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成20年2月7日

【情報提供票より】(平成20年1月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成17年4月12日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14人, 非常勤 1人, 常勤換算 14.6 人

(2)建物概要

建物形態	併設/ 単独	新築/改築
建物構造	木造平屋 造り	
	1階建ての	階 ~ 1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	15,300 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名	
要介護1	2 名	要介護2	6 名			
要介護3	8 名	要介護4	2 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	88.6 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宮内クリニック、田淵歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは周囲に住宅や小学校があり、田園風景を見渡せるのどかな場所に佇んでいる。入居者の多くがこの地域の方々ということもあり、日々の散歩や買い物、地域行事への参加などを通して、これまでの慣れ親しんだ生活と変わらない日々を送っている。職員は、入居者に対して家族を思いやるような気持ちで寄り添い、「今日できる当たり前の生活を明日も続けられるよう」に支援している。健康管理については、母体のクリニックや協力医療機関により手厚いバックアップ体制が築かれており、入居者やご家族にとっては大きな安心となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回は、ホームの環境面と感染症対策についての課題が提示されていたが、入居者へも配慮した環境整備と、感染対策マニュアルの整備等を行い、十分な改善対策が行われている。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員で自己評価の内容確認を行った上で評価に取り組み、最終的に職員全体でまとめを行い、今後の具体的な改善点を話し合っている。
重点項目	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、参加者も固定することなく色々な立場の方に声かけし、できるだけ多くの方に参加していただけるよう働きかけている。また、会議においてもホーム側の一方的な報告にならないように心掛け、ターミナルケアへの対応等、それぞれの立場から意見をいただけるように進行することで、双方の意見交換ができています。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 面会に来られた際には、その都度近況報告をしながら意見交換を行い、遠方にいらっしゃる方には電話等に対応している。運営推進会議へ御家族が交代して出席していただいたり、家族会を通じて気軽に意見や要望を出していただくようにしている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 入居者の多くが地域の方ということで、なじみの関係が構築されており、近くの小学校とは、マラソン大会の応援に出かけたり散歩ついでに寄ったりすることで、快く受け入れていただける関係が築かれている。また、地域の農業関係の催し物に積極的に参加して、地域住民との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者が、その人らしい生活が送れるよう、理念実現に向け入居者とともに取り組んでいる。地域の中での暮らしということを意識はしているものの、文言としては理念に掲げられていない。	○	「地域の中で暮らし続ける」ということを理念の中で謳う予定であり、実践に向けて取り組み始めているので、その実現に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	現在の理念について全員で見直し、より現場の声を反映して入居者の特性に沿ったケアを目指せるように、また「入居者が今日できたことが、明日もできるよう」ということを踏まえた理念づくりが進められている。	○	理念について職員間で見直し、築き上げられている段階であり、共通認識は図られているが、理念の共有について、実現していくための日々の取り組みについて確認し合うなど、さらなる努力に期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの小学校とは、マラソン大会の応援に出かけたり散歩ついでに寄ったりすることで、快く受け入れていただける関係が築かれている。また、地域の農業関係の催し物に積極的に参加して、地域住民との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員に評価項目を配布し、振り返りに活用している。最終的に職員全体でまとめをし、今後の具体的な改善を話し合い取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、参加者も固定することなく色々な立場の方に声かけし、できるだけ多くの方に参加していただけるように働きかけている。また、会議においてもホーム側の一方的な報告にならないように心掛け、色々な方より意見を聞くように進行することで、双方の意見交換ができています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常業務の中での疑問点や不明な点等について、市の担当者に連絡を取り、相談を行っている。	○	市担当者への連絡は、不明な点に関する問題解決のための相談が主となっている。今後は、ホームの実績や内容紹介等も行い、積極的にアピールされることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られた御家族に対しては、その都度近況報告をしている。遠方にいらっしゃる御家族には、電話等で近況報告を行っている。金銭管理については、定期的に詳しく報告されている。	○	現在行われている報告の方法や内容等について、御家族のニーズと合致しているか、話し合われることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ御家族が交代で出席して、意見や要望を出していただくようにしている。また、意見箱を設置しており、気軽に意見が出せるように配慮されている。家族会は、意見が出やすいような雰囲気づくりを心掛けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職等による入居者への影響に対する対策として、引き継ぎ期間を設け、特に夜勤の引き継ぎには十分に時間を取るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機関紙を活用してホーム内での勉強会に用いたり、自己学習に用いたりしている。外部研修へも、できる限り職員が参加できるように配慮している。研修参加後は、職員会議で報告を行っている。	○	職員育成の方針や研修計画を立て、段階に応じた計画的な職員育成に取り組まれることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会に参加し、交流する機会を設けているが、相互訪問やネットワークづくり等は検討中である。	○	グループホーム間のネットワークづくり等の活動や、互いのグループホームを行き来できるような関係づくりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に可能な限り見学していただき、ホーム内の環境や雰囲気をみてから入居に至っている。入院施設からの入居の場合は、入居にあたり混乱が生じないように、御家族の頻回な面会を通して、早くホームの雰囲気に慣れていただけるように対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者との生活の中で常に喜怒哀楽に関心を向け、その方が今どう感じているのか、どのようなサインを出されているのか注意を払いながら接することで、入居者の思いを共感できるように取り組んでいる。また、入居者より色々なことを教わる場面を、学ぶためのセッティングとして考えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の癖やしぐさの特徴をつかみ、本人の意向を把握できるように努めている。また、「気づき記録」を活用し、日常生活の中で知り得た入居者の意向等を記録して、職員間や御家族との情報共有を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、御家族、職員、主治医とで話し合いをし、その人がその人らしく地域の中で暮らしていけるように介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的なモニタリングを行った上で、計画の見直しを行っている。また、身体状態に変化があった場合は、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、御家族のその時々事情に応じて、専門病院への受診支援を行ったり、同一法人グループからの協力を得て柔軟な対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者は、協力医療機関より2週間に1回の訪問診療を受けている。本人、御家族の希望に応じて、他の医療機関の受診も可能であり、その際は紹介状を準備したり、返書を受けたりして、医療情報の確認も十分になされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	アセスメントを取る時期に、ターミナルケアや今後の意向について、本人や御家族に希望を確認するようにしている。また、主治医の意見も聞きながら、十分に話し合いを進めていく姿勢を持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりに応じた言葉で、わかりやすく話すように努めている。場合によっては、方言を使用した方が分かりやすければ、方言での対応も行っている。また、外来者への対応や個人情報の取扱い等において、入居者のプライバシーが侵されることのないよう十分に配慮して取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々のできることとできないことを見極め、一人ひとりに合ったペースで行動できるように、時間の使い方には十分配慮されている。また、その日の過ごし方については、日々入居者へ尋ね、希望に沿うように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立については、入居者も含め「この材料で何を作りましょうか」などと意見をもらいながら、できるだけ希望に添えるものとなるようにしている。また、畑の野菜づくり、食材の下ごしらえ、取り分け、配膳等をおの方の能力や好き嫌いに合わせ、役割分担しながら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	最低週3回は入浴できるよう対応しているが、本人の希望や状態に応じ、時間帯を工夫するなどしてその都度対応している。入浴拒否される場合は無理強いをせず、入浴時間を変えたり清拭や部分浴に変更して、できるだけ気持ちよく入浴できるよう対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や特技、趣味等を十分理解した上で、一人ひとりに合った家事作業やレクリエーションを提案している。また、季節毎にドライブを行い、自然に触れる機会を作ることで、季節を肌で感じていただけるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に入居者の希望に添った散歩や買物へ出かけたり、地域の行事やイベント等へも積極的に出かけている。また職員は、入居者のニーズの変化をつかむ努力をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムを設置し、日中は施錠していない。入居者の状態に応じて、落ち着きのない様子が見られた場合は、散歩やドライブをして対応している。また、地域の警察や住民の協力を得られるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は、消防署立合いのもとで定期的に行われている。また、運営推進会議にてホームの内情を説明し、地域の方々の協力が得られるようにしている。	○	種々の非常災害時におけるマニュアルを整備して、その対応方法について、さらに周知徹底されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、栄養士に確認の上でアドバイスをもらうようにしている。また、咀嚼能力に応じた食事形態の変更にも対応している。	○	日常的に食事摂取量や水分量等のチェックを行い、入居者の日々の状態を把握することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や照明は、入居者が不快に感じないレベルに調整されている。窓は閉めきることなく、できるだけ開放して自然な換気がなされるように取り組まれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にあるベンチやホールのソファは、入居者が一人で過ごしたり、気の合う仲間と時間を楽しんだりするスペースとして活用されている。		